

岩手県学生会館

会館だより 第二号

夏の暑さも今年は少しは楽かなと思っていたら、いつの間にか秋風が吹いていました。そしてもう十二月。もう冬の装いが始まっています。もともと、冬への心構えは東京ではちよつと違う。冬の厳しさに全力で立ち向かわなければならぬ岩手と違って、東京ではちよつと寒さをすり抜けようかぐらいののでしょうか。実際エアコンで凌げる寒さですから楽なものかもしれませんが。それでも寒さが続けば春への憧れが強くなって心を豊かにしてくれます。寮生の皆さんもそれぞれの季節感を十分に味わいながらそれぞれの目標に向かって頑張ってほしいと思います。

また、夏休みが過ぎると、各学校では学園祭の季節となります。学生の皆さんは大学で学園祭を盛り上げ、新たな経験を積んだ人も多いのではないのでしょうか。一步一步新たな経験を積み、成長していったほしいものです。

さて、少し遅くなつてしまいましたが会館だより二号をお届けします。今号は今までの寮内での活動、夏休み前の慰労会並びに講演会、自治会主催のレクリエーションの様子と寮生の夏休み中の活動、特に海外へ雄飛し勉強してきた人の経験談を中心にお届けしようと思います。



昨年のイーハトーブ講演会で講演をしていただいた小松理事（現アジア研究センター客員教授）が強調なされていた「海外へ出る」を実践した人たちが、皆が実践できるわけではないでしょうが、その経験をみんな

なで共有できれば素晴らしいなあ、との思いから筆を執っていただきました。また、TBSアナウンサー小笠原亘さん（黒沢尻北高校出身）が夏休み前慰労会の時に講演してくださいった様子とアンケートについてもご紹介したいと思います。

なお、平成20年まで4年間寮生活を送った久保さん（西和賀高校、早稲田卒、現岩手県東京事務所）から特別寄稿をいただきました。当時の様子を想像してみてください。より良い寮生活を送るために参考にしたいと思っています。

ありがとう
楽しかった

小笠原 亘

アナウンサー

- ・直接話すことはできませんでしたが、様々な話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・お話を聞いてとてもためになりました。アナウンサーという職業を深く知ることができてすごく良かったです。
- ・やはりその職業をやっている方しか分からないこともあるので職業研究の勉強になりました。このような機会を作っていただきありがとうございました。

- ・普段聞けないようなアナウンサーの方の貴重な話を聞くことができたので良かったです。・本物のアナウンサーのお話を聞いてよかった。・メディア関係の仕事はとても大変とよく耳にするので、その仕事を本当に楽しそうに話しており、仕事に対する思いがとても伝わってきました。・滅多にない機会だったので、色々なお話を聞いて知らない世界に触れることができました

平成 26 年 7 月 27 日
岩手県学生会館
夏季休業前慰労会

講師

小笠原 亘 氏
TBSアナウンサー
黒沢尻北高校出身



- ・同じ岩手県出身であり、東京で活躍されている方のお話を聞くことができ、良い経験となりました。私も岩手県と東京をつなぐ仕事ができたらと思います。
- ・普段聞けない話を聞いた。
- ・今回は講演会ののち小笠原様を交えての懇親会を行ったことで、学生もより積極的に参加できたと思う。充実していたし、自分にとって有意義な体験となったので良かった。



自治会の活動

6 月 22 日におこなわれた懇親会は、私自身初めて寮外に出ての親睦会ということもあり参加人数は多くはありませんでしたが、その分お互いに打ち解け合い、急遽決まった二次会のカラオケでもみんな楽しみ、非常に密度の濃い交流会となりました。

7 月 27 日に行われた懇親会では、岩手出身の TBS アナウンサーである小笠原亘さんを招いての講演会を開催しました。講演会に参加した寮生は小笠原さんの学生時代の経験談や、現在のお仕事についての興味深いお話しに聞き入っているようでした。講演会の後に、小笠原さんを交えての慰労会も行いました。

慰労会では寮生同士の親睦を深めるとともに、小笠原さんと碎けた会話の中から、寮生それぞれが感じたことは大きかったのではないのでしょうか。私は小笠原さんとの会話から、残り少ない学生の間にもっと多くの経験を積んで深みのある大人になって社会に出たいと思いました。そのために寮内でも様々なイベントを企画していきますのでご協力をお願いします。

寮長 永島



総会の後はこんなに



そ・う・か・い？



同じ岩手の賢人なはず

イギリス留学を終えて

江幡なるみ

私は昨年度の 2 月中旬から 3 月末までの 6 週間、大学の短期語学研修プログラムに参加してイギリス・ハル大学に留学してきました。これが初めての海外経験で、自分の英語力(特にスピーキング)に自信があったわけでもない私が、いきなり異言語圏・異文化圏に飛び込んだ感想を少々書き連ねていきたいと思います。

語学研修が第一の目的であったので、大学では基礎的な英語の授業やイギリス文化・歴史について学ぶ留学生向けの少人数編成クラスに参加しました。このほかには専攻分野として言語学と、異文化理解の授業を聴講させていただきました。先生方の解説はわかりやすく、また英語も聞きやすかったので講義を受けることはあまり苦ではなかったのですが、慣れるまではクラスメートと会話するのがとても大変でした。中国人と中東人から成るクラスに入り、お互いに母国語ではない言語で話をするこの大変さを思い知りました。基本的に授業は参加型で活発なので、とにかくスピーキングとリスニングの力が鍛えられましたが、もともと英語でのディスカッションが苦手だった私はついていくのがやっとでした。研修を終える頃に

なつても、ディスカッションではやはり言葉が出てこずに悔しい思いをしたことを覚えています。それでも何とか友人の発音の癖などを理解できるようになり、日常的にはあまり差支えない程度まで会話できるようになれたので良かったです。

また授業がない時間や休みの日は、ハルやヨークの市街地を回ったり、ロンドン観光やさらに足を延ばしてアムステルダムやパリにも訪れることができました。もともと歴史が好きだったので、教科書に載っていた名画や遺物を実際に見ることができて非常に嬉しかったです。街並みも土地によって雰囲気異なっていて、私は特にアムステルダムが気に入ったのですが、建造物等も日本とは違う趣があり歩いているだけでも楽しめました。

言葉の壁や緊張で初めはどうなることかと



も思いましたし、実際ににもどかし苦しい思いもしたけれど気が付けばイギリス、ハルの街が大好きになつていて、帰国の日はとても辛かったです(勿論早く帰国したかったのですが)。

思い返すと楽しかった思い出や嬉しかった思い出ばかりです。これも全て、クラスメート、大学で日本語を学んでいる学生たち、先生方、一緒に研修に参加した学生たちを含めた私に関わってくれた人たちのおかげです。6 週間という短い期間でしたが、実際に授業外でコミュニケーションツールとしての「英語を使う」という体験ができたことで、今まで勉強し、専攻してきた「英語」という言語について深く考える機会ともなりました。帰国後に英語を話す機会はかなり少なくなりましたが、自分なりにこの経験を劣化させないように努力したいです。

最後に、初めての留学を後押ししてくれた皆様に、そしてこの拙い文章を読んで下さった方に、感謝を込めて終わりたいと思います。本当にありがとうございました。



留学体験記

佐々木眞一

今年の八月、イギリスの大学で二週間のサマープログラムに参加してきた。滞在したのはイギリス中部の人口約五十万人の都市シェフィールド。同じ大学の学生や他国からの留学生とともにシェフィールド大学にて英語学習の授業、専門分野の講義を受けた。

海外経験のなかった自分にとって今回の留学で最も大きかったことは、今まで触れもしなかったようなことを少しでも体験できたことだと思う。二週間という短い期間では英語力が劇的に向上するということはなかった。しかし滞在中やその前後には多くの初めてのことを体験した。日本国内で英語を学んだり、旅行したりするだけでは得られないそれらの体験が、これからの人生で役立つものになると思う。

まず日本でたくさんさんの準備が必要だった。プログラムへの応募や登録のために各種書類をそろえたり、保険へ加入したりする必要があった。プログラム前後のホテルや航空機、鉄道のチケットの予約は個人で行うため、それらを調べるのに予想以上に時間がかかった。パスポートやクレジットカードも今回の留学のために初めて作った。

初めての海外、入国審査を終え単身ヒースロ

ー航空の入国ロビーへ着いた時の感想は「案外いけるんじゃないか？」というものだった。気のせいであった。コンビニでおつりの確認に必死になり商品を取り忘れる、クレジットカードのみと大きく書いてある券売機でお札を使うとする等々、初日は失敗の連続であった。日本と仕組みが違っていることに加え、未知の土地にいてことであたふたしていたのだと思う。ロンドンで一泊し、観光をしてから鉄道でシェフィールドへ向かった。



シェフィールドでの生活は、午前是他国からの留学生とともに英語の授業を受けた。授業の中心は学生どうしでのディスカッションであり、自分の考えを自分の言葉で表現することが求められた。「仕事をする上であなたが重視すること何か？」などの議論で、個人の価値観の

他にも国民性の違いを実感した。午後はシェフィールド大学の教員から文理別に分かれ講義を受けた。日本で受けている講義よりも講師生徒間のやり取りが多いように感じた。夕食後や土日は自由時間であった。他の参加者とともにパブに行ったり、離れた町へ観光しに行ったりと楽しい日々を過ごすことができた。

プログラム終了後は再びロンドンに滞在し市内や近郊の町を観光した。このころには人之道を尋ねたり、交通機関を利用したりすることも無事できるようになっていたと思う。物価や料理の味の違いにもだんだんと慣れていった。夕方になると公園の芝生で人々が寝転んでいるのもおなじみの光景となった。イギリスは町並み、自然がとてもきれいであった。ぜひまた訪れたい。



留学体験記

小原菜穂

八月中旬から九月中旬にかけて約一か月間アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコに短期留学をしました。

今回の留学を通し、私はまさに井の中の蛙であつたと感じました。ホームステイ先でも留学先の学校でも、様々な新鮮で貴重な経験を経験することが出来ました。

ホームステイ先はホストファミリーとマザーのお二人の家庭でした。ロシア人の女の子と一緒にステイし、毎日一緒に学校に通っていました。朝は各自で好きなものを食べるのですが、夕食は四人そろってゆっくり話をしながら食べていました。夕食は、野菜とお肉、ジャガイモ、お米、トルティーヤなど様々なものが出ました。寿司が出ることもありました。文化の違いなど様々な面白い話ができたので、毎晩夕食の時間が楽しみでした。

留学先はドミニカン大学というところでした。ドイツ・ベネズエラ・ロシア・中国・韓国・サウジアラビア・コロンビア・台湾など様々な国籍の人達と一緒に学習しました。一緒に学んで感じたのは、日本人以外の子達は本当によく発言します。疑問に思ったらすぐ質問します。

教室の雰囲気も日本とは異なり、発言するのは勇気のいることではなくて普通の事だという雰囲気でした。勿論自分で考える事も重要だと思いますが、発言する事で他人の意見も聞けるので、日本の学校でもそのように授業に参加する姿勢や参加できるような環境がもつと見られても良いのではないかと感じました。一方で、留学を通して日本の良い所も感じました。留学先では相手の話を遮ってでも自分の話をしようとする場面が多く見られましたが、個人的には、日本人のように相手の事を考えるのもある程度は大事だと思いました。また、施設を綺麗に使う事も、日本人が誇りにして、これからの大事にすべき事だと思います。日本に行ったことのある子達に日本の印象を聞くと、とても清潔だという答えが返ってきました。当たり前だと思っていたことが覆されるような、そんな体験が多かったです。

今回の留学で一つ良かった事はこのように視野が広がった事です。もつと良かったのは、素敵な人々と出会えた事です。ホストファミリーも見ず知らずの私に優しくしてくれ、熱を出した時も心配して薬を買ってきてくれました。ロシア人の子とは一生の付き合いが出来ると思います。クラスメイトと一緒に参加した日本の子達とも友情を築くことが出来ました。優しい気持ちさえあれば人と人とのつながりに国境はないと思いました。

今回の留学経験をこれで終わらせることなく、これをきっかけに日本の事・世界の事をもっと学んでいこうと思います。ここにはとても書ききれないくらい本当に充実した生活を送ることが出来ました。相談に乗って下さった寮の方々、友人達、留学先で出会った人々、そして、祖父母、おじ、家族に深く感謝します。



特別寄稿

学生会館での出会い

久保 恵子

私は、2006年から四年間の大学生活を岩手県学生会館でお世話になりました。学校や故郷が異なる友人達と過ごした四年間には沢山の思い出があります。加えて、四年間だけではなく、卒業した今でも、友人関係が続いているのは、寝食を共に出来た友人達だからこそ。そして、「いわて」という共通点があったからこそだと感じています。

現在、私も含め友人達は、居住地が県外県内ばらばらですが、年に数回は皆が集まり、近況報告をしあっています。話す内容が、学生生活のことではなく、仕事や結婚の話に変わりましたが、交流自体は何も変わっていません。学生会館の友人達とは出会ってから、もう、10年になりますが、これからの関係は続いていくのだと思いますし、きっかけになった「学生会館」は、私にとって、いつまでも思い出の拠点です。

「学生会館」との出会いは、高校生のとき、校内掲示されていたポスターでした。上京し、進学したならば、「一人暮らしではなく、寮生活をする」と「両親からの条件だった私は、ポスターを見て、これだ!」と思ったのを覚えています。最近、両親と話してみると、学生会館は、岩手県が運営してい

ることから、とても安心感があつたそうです。実際、セキュリティも万全ですし、館長さんが常時いる、という状況は、本人よりも保護者の安心感が、通常の一人暮らしと比べ物にならない位大きいものだったと思います。

また、今考えると、とても小さな事ですが、当時は、門限があつたり、風呂が日曜日使えなかったり、多少の不満があつたのも事実ですが、今ではいい思い出です。門限に間に合うために友人達と駅から走ったり、日曜日は皆で銭湯に行ったり、その銭湯のおじさんと仲良くなったり、日々の思い出は数え切れません。それから、私が思う学生会館ならではの思い出の一つに「玄関のダンボール箱」があります。当時、荷物が届くと、玄関に荷物置き場があり、そこから本人が受け取り、部屋まで運ぶ形式で、荷物が複数個、玄関にありました。そのダンボールの多くは、学生の実家から送られてきているもので「いわて」や「りんご」など、地名や岩手の特産品の名前が入っているものでした。私は、玄関のダンボール箱を見るたびに「ああ、ここは自分と同じように岩手から上京している子ばかりだ」と、再認識していました。人生で初めて実家を離れたのが大学でしたので、そういう些細なことでも嬉しく感じていました。とても印象に残っていますし、そのダンボール箱の風景が鮮明に思い出されます。

また、学生会館では階数ごとに男女の階が分か

れている珍しいタイプだと思っています。性別関係なく、先輩や後輩と食事をしたり、議論をしたりして過ごしていました。学校の試験や就職についての相談等し、その時の多くのアドバイスから、今の進路や考えに至っていると言っても過言ではありません。

私は大学生活四年間を通して、学生会館の恵にあずかった学生の一人です。いまの学生が、素敵な出会いと思い出を作ってくれることを先輩の一人として願っています。



久保さんありがとうございました。今後のご活躍を祈念いたします。

会館からの連絡

○食料費の返金について

新しい制度ですが経験を積んで大分スムーズにいくようになってきました。ただ、未だ3日前の午前中(日・祝を除く)というのが徹底されていない向きもあります。気を付けていただきたいと思います。また、届用紙の使い方も連続の場合は1日から1日までと記入していただければ十分です。一日毎何枚も出していた必要はありませんので用紙の節約にもご協力ください。

○下足箱、レターケースの整理について

「皆さんがお使いになっている下足箱の乱雑さが目につきます。」と、以前この「たより」の中でもお願いをしましたが、改善が見られたのはごく一部の方だけでした。というよりさらにひどくなっている状態です。自分は何ともないではなく、他の人の立場も考慮できるようにならなければならないと思います。世間の常識、思いやりにもつながっていくことです。成長してください。

○共用スペースの使用について

お風呂、学習室、図書室は共同で使用する場所です。いつまでも個人のものを置きっぱなしにしたり、乱雑な使用は他人の迷惑になります。大いに慎みましょう。

○平成27年度新入寮生の募集について

今年もその時期になってまいりました。来年度は男子15名程度、女子20名程度の募集になります。選考方法も去年とは一部変更し、盛岡での面接を2回実施することとしています。東京での面接は3月末まで実施することになっています。皆さんのお知り合い、後輩の方など東京に出てこられる方がいたら声をかけてください。なお、今年度は募集人数が例年より少ないこともあり、倍率が出る(満室になる)のではないかと心配しています。そうなると現1年次の方々の在寮延長は相当厳しいものになる可能性もありますので頭に入れておいてください。

○荷物の受け取りについて

毎日たくさんさんの荷物、郵便が届いておりますが、次の点を守っていただきたいと思っています。
・代引きによる荷物等の受け取りに関しては予定の日までに現金を事務室に必ず預けてください。業者の方が無駄足を運んでしまいます。
・期日指定の方は在寮が原則になります。特に土、日曜日には本人受け取りが原則になりますので、荷物を送る方保護者にも確認をお願いいたします。

○ガム、菓子等の包装紙のポイ捨てについて

昨年度はあまり見られなかったのですが、包装紙が廊下に捨てられていることが目につく

ようです。毎日掃除していますが皆さんも注意していただきたいものです。

○年末です。一年の区切りに自省することも大事なことです。諸届も確実にお願いいたします。

編集後記

1号からだいぶ経ってしましたが、2号をお届けします。寮内の活動、寮生の活動を中心に紹介しましたが、まだまだ一体感が醸成されているとは言い難い状況でしょう。自ら積極的に寮生活の向上のために尽力願いたいものです。次回は退寮生からの一言を中心にお届けします。



発行元 公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館事務局

同 自治会

住所 東京都豊島区要町2丁目5番5号
電話 03-3972-4783